

# 母親の乳児集団健診に対する期待に関わる要因 —母親の属性要因と母親としての自信及び子どもへの感情との関係—

炭谷靖子<sup>1</sup> 成瀬優知<sup>2</sup>

<sup>1</sup>富山医科薬科大学大学院医学系研究科修士課程

<sup>2</sup>富山医科薬科大学大学医学部看護学科

## 要 約

本報では、母親の乳児集団健診への期待と、母親としての自信、子どもへの感情及び母親の属性要因との関係を明らかにすることを目的とした。

対象は、3・4か月児健診に訪れた母親683名であり、健診に期待するもの4領域（成長発達の確認、他の子どもを見ること、悩みを相談できること、他の母親との交流）に関係する要因を検討した。

その結果、ほとんどの母親が何らかの期待を持って健診に参加していた。そして、いずれの期待にも第1子の母親であることが関与していた。

また、集団健診の特徴である「他の子どもを見ること」「他の母親との交流」には、第1子の母親、母乳育児という要因が関与していた。

なお、「成長発達の確認」、「悩みを相談できること」を期待する人の、母親としての自信が低く、健診の場で母親としての自信を高めるような関わりが重要と考えられた。

## キーワード

乳児集団健診, 自信, 対児感情, 育児支援

## 序

出産後、初めて参加する乳児集団健診として3・4か月児健診を実施する市町村が多い<sup>1)</sup>。そして、現在、これらの乳幼児健診に対して単に異常を発見する場としてではなく、育児支援の場として期待が大きくなっている<sup>2-3)</sup>。

では、この健診に参加する母親たちはどのような期待を持って健診に参加し、その期待には母親のどのような状況が関与しているのだろうか。

そこで本報では、乳幼児集団健診の意義を利用者側の期待という視点から検討するために、母親の期待、母親としての自尊感情、子どもへの感情の状況を明らかにし、3・4か月児健康診査に対

する母親の期待に関わる属性的要因と母親の自尊感情、子どもへの感情との関係を明らかにすることを目的とした。

## 研究方法

1. 対象：富山県内2箇所保健センターにおける4か月または3か月児健康診査を受診した子どもの母親で、健診の場において調査者が調査の目的を説明し、調査の協力に同意が得られた母親。
2. 調査期間：平成10年6月～9月（延べ16回の健診において実施）
3. 調査方法：無記名による自記式質問紙法（健診会場で調査者が質問紙を配布し、記入後その場で回収した。）

調査用紙配布数 計699  
 回収数 計697  
 有効回答数 計683 (98.0%)

#### 4. 調査内容

- a) 対象の属性：母親の年齢，母親の就業状況，育児についての相談者の有無，日中の主な育児者，子どもの性別，子どもの出生順位，子どもの出生時体重，哺乳方法，子どもの育てやすさについての感覚（5段階評価）
- b) 今回の健診に対する期待：三国<sup>4)</sup>の調査を参考にして，期待していることは無い，専門家に成長発達を確認してもらうこと，他の子どもの様子を見られること，日頃の悩みを相談できること，健診に来た他のお母様と交流がもてること，その他（自由記載）をあげ複数回答を求めた。
- c) 育児能力に対する自信：菅<sup>5)</sup>がRosenberg, M.のSelf-Esteem尺度を基に実施の簡便性を図るために4段階のリッカート・スケールとしたものを参考に作成した。つまり母親としてのSelf-Esteemを測定するために質問項目に「母親として」という言葉を追加し，再現性を高め，他の質問項目との調和を図るため，5段階（全く思わない～全くそう思う）のスケールとした（10項目）。なお，本調査におけるこのスケールのCronbach  $\alpha$  信頼性係数は0.83であった。
- d) 母親の子どもに対する感情：花沢<sup>6)</sup>による対児感情尺度を再現性を高め，他の質問項目との調和を図るため，5段階評価（全く思わない～全くそう思う）として使用した。対児感情尺度は接近感情（14項目）と回避感情（14項目）の2つの概念から構成され，2つの概念の拮抗状態として拮抗指数（回避得点/接近得点 $\times$ 100）を算出する。つまり，拮抗指数が低いほど子どもに対する接近感情が勝っているといえる。なお本調査における接近感情尺度のCronbach  $\alpha$  信頼性係数は0.83であり，回避感情尺度のCronbach  $\alpha$  信頼性係数も0.83であった。

#### 5. 解析方法

- ① 健診に対する期待状況を単純集計と属性別

比較し，カイ2乗検定を行った。

- ② 母親としての自尊感情得点を属性別及び健診への期待別に比較し，一元配置分散分析により検定した。
- ③ 母親の対児感情得点を接近感情，回避感情，拮抗指数別に属性毎及び健診への期待別で比較し，一元配置分散分析により検定した。
- ④ 健診への期待別に影響する因子を探るため母親の属性，自尊感情，対児感情を用いて多重ロジスティック・モデルによる解析を行った。

### 結 果

#### 1. 対象の属性（表1）

母親の平均年齢は $28.8 \pm 3.9$ 歳（範囲19～40歳）であり，出生時体重は $3113.2 \pm 390.8$ g（範囲1,795～4,510g）であった。子どもの性別は男児が353人（51.7%）とやや多く，また，第1子は368人（53.9%）であった。なお，双生児は出生順位の早い順に含めた。哺乳方法は，ほとんど母乳の人が307人（44.9%）であり，この時点で何らかの仕事を持っている人は，247人（36.2%）であった。また，日中の育児者はほとんどが母親であった（610人89.3%）。

#### 2. 健診に期待するもの

「健診に期待していることは無い」と答えた人は10人（1.5%）であり，ほとんどの人が何らかの期待を持って受診していた。

健診への期待について（複数回答）は，「専門家に成長発達を確認してもらうこと」590人（86.4%）が最も多く，次いで「他の子どもの様子を見られること」561人（82.1%），「日頃の悩みや心配を相談できること」293人（42.9%），健診に来た他のお母様と交流がもてること207人（30.3%）であった。なお，その他への記載は無かった。

#### 3. 健診に期待するものの属性別比較（表1）

健診に対する期待状況として回答を求めた「期待していることは無い」「専門家に成長発達を確認してもらうこと」「他の子どもの様子を見られること」「日頃の悩みを相談できること」「健診に来た他のお母様と交流がもてること」について，

表1 健診への期待(属性別比較)

	n	健診への期待なし	成長発達の確認 期待あり	他の子供の観察の 期待あり	悩みの相談の 期待あり	他母親との交流の 期待あり
計	683	10 ( 1.5% )	590 ( 86.4% )	561 ( 82.1% )	293 ( 42.9% )	207 ( 30.3% )
年齢						
19~29歳	395	6 ( 1.5% )	348 ( 87.9% )	326 ( 82.3% )	176 ( 44.4% )	134 ( 34.1% ) *
30~40歳	288	4 ( 1.4% )	242 ( 84.1% )	235 ( 81.7% )	117 ( 40.8% )	73 ( 25.3% )
職業						
有職	247	5 ( 2.0% )	211 ( 85.2% )	199 ( 80.4% )	110 ( 44.4% )	65 ( 26.0% )
主婦	436	5 ( 1.4% )	379 ( 86.6% )	362 ( 82.7% )	183 ( 41.8% )	142 ( 32.5% )
育児相談者						
あり	668	10 ( 1.6% )	581 ( 86.6% ) **	547 ( 81.6% )	287 ( 42.9% )	198 ( 29.5% )
なし	15	0 ( 0.0% )	9 ( 62.5% )	14 ( 93.8% )	6 ( 37.5% )	9 ( 56.3% ) *
主な育児者						
母	610	9 ( 1.6% )	526 ( 85.9% )	502 ( 82.0% )	269 ( 43.8% ) #	196 ( 32.0% ) **
母以外	73	1 ( 1.4% )	64 ( 87.7% )	59 ( 80.8% )	24 ( 32.9% )	11 ( 15.1% )
子供の性別						
男	353	5 ( 1.4% )	298 ( 84.2% )	291 ( 82.5% )	168 ( 47.6% ) *	113 ( 31.8% )
女	330	5 ( 1.8% )	292 ( 88.1% )	270 ( 81.2% )	125 ( 37.6% )	94 ( 28.4% )
出生順位						
第1子	368	4 ( 1.3% )	327 ( 88.5% ) #	319 ( 86.3% ) **	194 ( 52.5% ) ***	131 ( 35.1% ) **
第1子以降	315	6 ( 1.9% )	263 ( 83.3% )	242 ( 76.7% )	99 ( 31.2% )	76 ( 24.3% )
出生時体重						
3000g未満	256	3 ( 1.2% )	221 ( 86.4% )	216 ( 84.5% )	104 ( 40.7% )	71 ( 27.5% )
3000g以上	427	7 ( 1.9% )	369 ( 85.9% )	345 ( 80.3% )	189 ( 44.0% )	136 ( 31.7% )
哺乳方法						
母乳	307	5 ( 1.9% )	265 ( 86.1% )	245 ( 79.6% )	143 ( 46.3% )	107 ( 34.6% ) *
混合	129	0 ( 0.0% )	113 ( 87.0% )	102 ( 78.6% )	57 ( 44.3% )	38 ( 29.0% )
人工	247	5 ( 2.0% )	212 ( 85.9% )	214 ( 86.7% ) #	93 ( 37.8% )	62 ( 24.9% )
育てやすさ						
育てにくい	133	6 ( 4.4% ) *	107 ( 80.7% )	111 ( 83.7% )	61 ( 45.9% )	32 ( 23.7% )
育てやすい	550	4 ( 0.9% )	483 ( 87.4% ) *	450 ( 81.4% )	232 ( 42.0% )	175 ( 31.7% )

#:p<0.1 \*\*:p<0.05 \*\*\*:p<0.01 \*\*\*\*:p<0.001

年齢（19～29歳，30～40歳の2群），職業（有職，主婦の2群で有職には育児休業中も含む），育児に関する相談者の有無，主な育児者（母親，母親以外の2群），子どもの性別（男女2群），出生順位（第1子，第2子以降の2群），出生時体重（3,000g未満，3,000g以上の2群），哺乳状況（ほとんど母乳，混合栄養，ほとんど人工栄養の3群），育てやすさの感じ方（育てにくい～どちらとも言えない，どちらかという育てやすい～育てやすいの2群）に分けて回答状況を比較し，カイ2乗検定を行った。

- ①「期待していることは無い」と答えた人は，育てやすさの感じ方の比較においてだけ，「育てにくい～どちらとも言えない」群の頻度が有意に高かった（ $p < 0.01$ ）。
- ②「専門家に成長発達を確認してもらうこと」を期待すると答えた人は，第1子に多い傾向（ $p < 0.1$ ）があり，相談者のある群（ $p < 0.01$ ），育てやすいと感じている人（ $p < 0.05$ ）で頻度が有意に高かった。
- ③「他の子どもの様子を見られること」を期待する人は，第1子（ $p < 0.01$ ）と人工栄養（ $p < 0.05$ ）の群で頻度が有意に高かった。
- ④「日頃の悩みを相談できること」を期待する人は，主な育児者が母の場合で多い傾向（ $p < 0.1$ ）があり，男児（ $p < 0.05$ ）と第1子（ $p < 0.001$ ）で頻度が有意に高かった。
- ⑤「健診に来た他のお母様と交流がもてること」を期待する人は，30歳未満（ $p < 0.05$ ），育児相談者の無い群（ $p < 0.05$ ），主な育児者が母（ $p < 0.01$ ），第1子（ $p < 0.01$ ），母乳（ $p < 0.05$ ）の群で頻度が有意に高かった。

#### 4. 母親の自尊感情得点の属性別及び健診への期待別比較（表2）

母親の自尊感情得点の得点可能範囲は10～50であるが，今回の調査での得点分布は13～50，平均は32.9（ $\pm 5.9$ ）であった。

この自尊感情得点を上記の属性別及び健診への期待別に比較し一元配置分散分析により検定した。

その結果，属性別比較では，第1子の方が第2子以降よりも得点の高い傾向（ $p < 0.1$ ）があった。そして，体重別比較で3,000g未満に（ $p < 0.05$ ），

育てやすさの感覚で，育てやすいと感じている群（ $p < 0.001$ ）の得点が有意に高値であった。

また，健診への期待別比較では，「日頃の悩みを相談できること」に対する期待の無い群（ $p < 0.05$ ）と「健診に来た他のお母様と交流がもてること」に対する期待のある群（ $p < 0.05$ ）で自尊感情得点が有意に高かった。

#### 5. 母親の対児感情得点，拮抗指数の属性別及び健診への期待別比較（表2）

母親の対児感情得点の得点可能範囲は接近感情得点，回避感情得点共に14～70であるが，今回の調査での得点分布は，接近感情得点が22～70，平均55.7（ $\pm 7.1$ ）であり，回避感情得点は14～58，平均27.8（ $\pm 8.3$ ）であった。なお，拮抗指数は，20～145，平均51.1（ $\pm 7.1$ ）であった。

この対児感情得点を上記の属性別及び健診への期待別比較に比較し一元配置分散分析により検定した。

##### 1) 接近感情得点の属性別，健診への期待別比較

接近感情得点の属性別比較では，30歳以上（ $p < 0.05$ ），女兒（ $p < 0.05$ ），育てやすい（ $p < 0.01$ ）群で有意に得点が高値であった。

また，健診への期待別比較では，「専門家に成長発達を確認してもらうこと」（ $p < 0.05$ ），「日頃の悩みを相談できること」（ $p < 0.01$ ），「健診に来た他のお母様と交流がもてること」（ $p < 0.05$ ）に対する期待のある群で有意に得点が高かった。

##### 2) 回避感情得点の属性別，健診への期待別比較

回避感情得点の属性別比較では，育てやすさの項目においてのみ育てにくいと感じている群が他に比べ有意に（ $p < 0.001$ ）得点が高かった。

また，健診への期待別比較では，有意な得点の差は見られなかった。

3) 拮抗指数の属性別及び健診への期待別比較  
拮抗指数の属性別比較では，第1子（ $p < 0.1$ ）に拮抗指数の高い傾向があり，男児（ $p < 0.05$ ）と育てにくい（ $p < 0.001$ ）と感じている群で有意に高い値であった。

また，健診への期待別比較では，有意な得点の

表2 母親としての自尊感情得点と対児感情得点の属性別, 健診への期待別比較

	n	対 児 感 情							
		自尊感情		接近感情		回避感情		拮抗指数	
		平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
計	683	32.8	5.9	55.7	7.1	27.8	8.3	51.1	18.0
年齢									
19~29歳	395	32.9	5.8	55.2	7.2	27.7	8.0	51.6	17.9
30~40歳	288	32.7	6.0	56.5	6.9 *	27.9	8.7	50.5	18.2
職業									
有職	247	32.9	5.9	55.6	7.1	27.9	8.5	51.3	17.7
主婦	436	32.8	5.9	55.8	7.1	27.8	8.2	51.0	18.2
育児相談者									
あり	668	32.8	5.9	55.7	7.1	27.8	8.3	51.0	18.0
なし	15	31.9	5.1	56.2	8.5	30.1	9.2	55.3	20.7
主な育児者									
母	610	32.9	5.8	55.7	7.1	27.9	8.2	51.3	18.0
母以外	73	32.3	6.4	56.2	7.1	27.3	8.9	49.9	18.5
子供の性別									
男	353	32.7	5.7	55.1	7.6	28.2	8.3	52.6	18.8 *
女	330	33.0	6.1	56.4	6.5 *	27.5	8.3	49.6	17.0
出生順位									
第1子	368	33.2	6.0 *	55.5	7.2	28.2	8.0	52.2	17.8 *
第2子以降	315	32.4	5.7	56.1	7.0	27.3	8.7	49.9	18.3
出生時体重									
3000g未満	256	33.5	5.8 *	55.8	7.1	27.7	7.8	50.7	15.5
3000g以上	427	32.5	5.9	55.7	7.1	27.9	8.6	51.4	19.4
哺乳方法									
母乳	307	33.1	5.6	56.1	6.4	27.7	8.1	50.4	17.1
混合	129	32.8	6.3	55.0	7.2	27.3	7.8	50.8	16.8
人工	247	32.5	6.0	55.6	7.9	28.2	8.8	52.1	19.7
育てやすさ									
育てにくい	133	30.6	5.9	54.1	7.0	31.7	8.8 ***	59.9	19.7 ***
育てやすい	550	33.4	5.8 ***	56.2	7.1 **	26.9	7.9	49.0	16.9
健診への期待									
あり	673	32.8	5.9	55.8	7.1	27.8	8.3	51.0	17.8
なし	10	34.7	5.9	52.7	9.8	28.8	11.1	58.5	27.7
成長発達の確認期待									
あり	590	32.7	6.0	56.0	6.9 *	27.8	8.1	50.7	17.2
なし	93	33.5	5.5	54.0	8.3	27.9	9.3	53.9	22.6
他の子供の観察の期待									
あり	561	32.8	5.9	55.8	7.1	27.9	8.2	51.2	17.8
なし	122	33.0	5.9	55.5	7.0	27.4	8.8	50.7	19.0
悩みの相談の期待									
あり	293	32.0	5.8	56.6	7.2 **	28.1	8.1	50.9	16.9
なし	390	33.5	5.9 *	55.1	7.0	27.6	8.5	51.3	18.8
他母親との交流の期待									
あり	207	33.5	6.1 *	56.7	7.4 *	27.7	8.3	49.9	17.5
なし	476	32.5	5.8	55.3	7.0	27.9	8.3	51.6	18.2

#:p&lt;0.1 \*:p&lt;0.05 \*\*:p&lt;0.01 \*\*\*:p&lt;0.001

差は見られなかった。

### 6. 健診への期待についての多重ロジスティック・モデルによる解析

属性相互の影響と母親の感情等の影響を調整して健診に期待するものに影響する要因を検討するため、多重ロジスティック・モデルによる解析を行った。

用いた変数は、年齢、職業、育児相談者、主な育児者、子どもの性別、出生順位、育てやすさ(以上2カテゴリー)、哺乳方法(3カテゴリー)、及び母親としての自尊感情、対児感情(いずれも連続変数)で一括して解析した。

#### 1) 「専門家に成長発達を確認してもらうこと」(表3)

有意なオッズ比がみられたのは相談者の有無、出生順位、育てやすさであり、それぞれ、相談者なしはありに対し0.22、第2子以降は第1子に対

し0.59、育てやすいは育てにくいに対し2.12であった。

一方、母親の感情得点に関して有意であった1単位あたりのオッズ比は、自尊感情0.95、回避感情1.14、拮抗指数0.93であった。

#### 2) 「他の子どもの様子を見られること」(表4)

95%信頼区間で有意なオッズ比がみられたのは属性として、出生順位と哺乳方法で、それぞれのオッズ比は、第2子以降は第1子に対し0.44、人工乳は母乳に対し0.63であった。

一方、母親の感情得点に関して有意なものはなかった。

#### 3) 「日頃の悩みを相談できること」(表5)

95%信頼区間で有意なオッズ比がみられたのは属性として、子どもの性別、出生順位、哺乳方法で、それぞれのオッズ比は、女兒は男児に対し0.59、第2子以降は第1子に対し0.32、人工栄養

表3 成長発達の確認への期待に関する要因  
(多重ロジスティック・モデルによる)

項目	オッズ比	95%信頼区間	
		下限	上限
n=683			
年齢			
30~40歳 / 19~29歳	0.82	0.50	1.36
職業			
主婦 / 有職	1.30	0.78	2.17
育児相談者			
なし / あり	0.22	0.07	0.68
主な育児者			
母以外 / 母	1.40	0.60	3.26
子供の性別			
女 / 男	1.29	0.81	2.05
出生順位			
第2子以降 / 第1子	0.59	0.35	0.98
出生時体重			
3000g以上 / 3000g未満	1.08	0.67	1.73
哺乳方法			
混合 / 母乳	1.09	0.57	2.10
人工 / 母乳	1.05	0.63	1.77
育てやすさ			
育てやすい / 育てにくい	2.12	1.22	3.68
母親としての自尊感情	0.95	0.91	1.00
対児感情			
接近感情	0.97	0.90	1.05
回避感情	1.14	1.00	1.29
拮抗指数	0.93	0.88	1.00

表4 他の子供の観察への期待に関する要因  
(多重ロジスティック・モデルによる)

項目	オッズ比	95%信頼区間	
		下限	上限
n=683			
年齢			
30~40歳 / 19~29歳	1.28	0.83	1.99
職業			
主婦 / 有職	1.33	0.84	2.11
育児相談者			
なし / あり	3.19	0.41	25.09
主な育児者			
母以外 / 母	1.05	0.51	2.16
子供の性別			
女 / 男	0.94	0.63	1.40
出生順位			
第2子以降 / 第1子	0.44	0.28	0.70
出生時体重			
3000g以上 / 3000g未満	0.80	0.53	1.23
哺乳方法			
混合 / 母乳	0.96	0.56	1.64
人工 / 母乳	1.63	1.01	2.63
育てやすさ			
育てやすい / 育てにくい	1.05	0.61	1.79
母親としての自尊感情	0.99	0.95	1.03
対児感情			
接近感情	0.99	0.93	1.07
回避感情	1.03	0.92	1.16
拮抗指数	0.98	0.92	1.05

表5 悩みの相談への期待に関する要因  
(多重ロジスティック・モデルによる)

項 目	オッズ比	95%信頼区間	
		下限	上限
n=683			
年齢			
30~40歳 / 19~29歳	1.20	( 0.86 - 1.78 )	
職業			
主婦 / 有職	0.80	( 0.55 - 1.17 )	
育児相談者			
なし / あり	1.07	( 0.35 - 3.24 )	
主な育児者			
母以外 / 母	0.53	( 0.29 - 0.99 )	
子供の性別			
女 / 男	0.59	( 0.42 - 0.82 )	
出生順位			
第2子以降 / 第1子	0.32	( 0.22 - 0.47 )	
出生時体重			
3000g以上 / 3000g未満	1.15	( 0.82 - 1.61 )	
哺乳方法			
混合 / 母乳	0.82	( 0.52 - 1.30 )	
人工 / 母乳	0.63	( 0.44 - 0.92 )	
育てやすさ			
育てやすい / 育てにくい	1.12	( 0.73 - 1.72 )	
母親としての自尊感情	0.93	( 0.90 - 0.96 )	
対児感情			
接近感情	1.05	( 0.99 - 1.12 )	
回避感情	0.99	( 0.89 - 1.10 )	
拮抗指数	1.00	( 0.95 - 1.06 )	

表6 他の母親との交流への期待に関する要因  
(多重ロジスティック・モデルによる)

項 目	オッズ比	95%信頼区間	
		下限	上限
n=683			
年齢			
30~40歳 / 19~29歳	0.80	( 0.54 - 1.17 )	
職業			
主婦 / 有職	1.14	( 0.77 - 1.67 )	
育児相談者			
なし / あり	4.70	( 1.55 - 14.28 )	
主な育児者			
母以外 / 母	0.46	( 0.22 - 0.96 )	
子供の性別			
女 / 男	0.79	( 0.56 - 1.12 )	
出生順位			
第2子以降 / 第1子	0.55	( 0.38 - 0.81 )	
出生時体重			
3000g以上 / 3000g未満	1.28	( 0.90 - 1.83 )	
哺乳方法			
混合 / 母乳	0.87	( 0.54 - 1.38 )	
人工 / 母乳	0.63	( 0.43 - 0.94 )	
育てやすさ			
育てやすい / 育てにくい	1.52	( 0.95 - 2.43 )	
母親としての自尊感情	1.02	( 0.99 - 1.05 )	
対児感情			
接近感情	1.04	( 0.97 - 1.11 )	
回避感情	1.00	( 0.89 - 1.11 )	
拮抗指数	1.01	( 0.95 - 1.07 )	

表7 健診に対する期待の比較  
1歳6か月児健診における調査結果  
(三国による)との比較

期待すること	3・4か月児健診での調査		1歳6か月児健診での調査	
	n=683		n=108	
専門家に成長発達を確認してもらうこと	590	( 86.4% )	95	( 88.0% )
同じくらいの他の子供の様子を見られること	561	( 82.1% )	72	( 66.7% ) ***
日頃の悩みや心配を相談できること	293	( 42.9% )	39	( 36.1% )
健診に来た他のお母様と交流がもてること	207	( 30.3% )	6	( 5.6% ) ***
その他	0	( 0.0% )	2	( 1.9% )

\*\*\*p<0.001

は母乳に対し0.63であった。

一方、母親の感情得点に関して95%信頼区間で有意であった1単位あたりのオッズ比は、自尊感情0.93であった。

4)「健診に来た他のお母様と交流がもてること」(表6)

95%信頼区間で有意なオッズ比がみられたのは属性として、相談者の有無、主な育児者、出生順位、哺乳方法で、それぞれのオッズ比は、相談者なしはあるに対し4.70、主な育児者が母以外は主な育児者が母に対し0.46、第2子以降は第1子に対し0.55、人工栄養は母乳に対し0.63であった。

一方、母親の感情得点に関して有意なものはなかった。

## 考 察

1. 乳児健診に期待することについての他の調査との比較(表7)

今回の3・4か月児集団健診を受診した子どもの母親を対象とした調査で、健診に期待する内容は「専門家に成長発達を確認してもらうこと」86.4%が最も多く、次いで「他の子どもの様子を見られること」82.1%、「日頃の悩みや心配を相談できること」42.9%、「健診に来た他のお母様と交流がもてること」30.3%であった。

一方、三国<sup>7)</sup>の1歳6か月児健診における108人を対象とした同様の調査では「専門家に成長発達を確認してもらうこと」88.0%が最も多く、次いで「同年齢の他の子どもの様子を見られること」66.7%、「日頃の悩みや心配を相談できること」36.1%、「健診に来た他の母親と交流がもてること」5.6%であった。この両者を比較すると、期待項目への回答率の順位は同じであるが、「同年齢の他の子どもの様子を見られること」( $p < 0.001$ )と「健診に来た他の母親と交流がもてること」( $p < 0.001$ )の回答率に有意な差があり、今回の調査対象の期待の方が高いと考えられた。これは、今回の対象が3・4か月児の母親であること、また、第1子が53.9%(三国の調査では兄弟なしが40.7%)という違い( $p < 0.01$ )によるためと考えられる。

一般的に、出産後3か月ころまでは子どもを連

れての外出はひかえるように指導されている。その他、授乳行動などの必要があり外出の機会も少なく、他の社会や他の家族との接触がきわめて少なくなっている時期である。Rubin<sup>8)</sup>は、「社会的接触は、自己のコントロールされた抑制の感覚、つまり良いセンスを与える。」そして、「ナルシズムの補給が枯渇していると、自己や、赤ん坊や、夫や、閉じ込められていると感じる状況からは、なんの喜びも生まれない。」と述べている。また、炭谷ら<sup>9)</sup>は3か月児を持つ母親の疲労状況の調査で、就業していない母親の方が就業中の母親に比べて精神的疲労の指標と考えられる「注意集中の困難」の訴え数が多かったと報告している。よって、今回の調査では、他との接触がより少ない第1子が多く、また3・4か月児健診での調査であるため、「同年齢の他の子どもの様子を見られること」「健診に来た他の母親と交流がもてること」という他との接触に対する期待が1歳6か月児健診での調査よりも高くなったと考えられる。

2. 3・4か月児健診への期待に関連する要因

1)「専門家に成長発達を確認してもらうこと」

カイ2乗検定と多重ロジスティック・モデルの両方の検定において「育児相談者あり」「第1子の母」、「育てやすいと感じている」群で「専門家に成長発達を確認してもらうこと」を期待する人が多かった。

また、母親の感情得点に関して、一元配置分散分析では、「専門家に成長発達を確認してもらうこと」を期待する人の接近感情得点だけが有意に高かった。

つまり、表面的には特に問題のない人たちが単に成長発達を確認することだけを望んでいるように見える。

しかし、多重ロジスティック・モデルでは、自尊感情と拮抗指数については得点が小さいほど、また、回避感情得点が高いほど「専門家に成長発達を確認してもらうこと」を期待する人が多くなると言える。

これらの結果を考え合わせると、母親としては未熟だが、相談者もあり、育てやすい子どもであると感じていて、子どもを可愛がってはいるが、



母親としての自信が低く、できれば子どもを回避したいと考える母親像が浮かびあがる。つまり、このような母親は、「専門家に成長発達を確認してもらおうこと」によって母親として承認されることを望んでいるのではないかと考えられる。

#### 2) 「他の子どもの様子を見られること」

単変量解析での結果と多重ロジスティック・モデルによる解析の結果は同じ傾向を示した。つまり、「他の子どもの様子を見られること」を期待する人には、第1子の母親、母乳で育てている人が多いと考えられる。

よって母親として未熟で、母乳栄養のため外出もままならない状況が、他との接触を望むことに関与しているのではないかと考えられる。

#### 3) 「日頃の悩みを相談できること」

単変量解析の結果では、「日頃の悩みを相談できること」を希望する人は、男児の母親、第1子の母親が多く、自尊感情が低く、接近感情が高い人に多いと考えられた。

しかし多重ロジスティック・モデルによる解析で有意であったのは、男児、第1子、母乳育児をしている母親であった。そして、自尊感情が低くなるほど「日頃の悩みを相談できること」を期待する人は増える。Froman RDら<sup>10)</sup>は、産褥早期の母親に対する調査で、男児の母親の方が女児の母親より乳児の世話に関する自信は少々低かったと報告している。今回の調査でも悩みの相談に関連するものとして、子どもの性別が示唆されていることから、子どもの性別が、母親の育児の自信や悩みに関与する重要な因子であると考えられた。

また、単変量解析では、接近感情が悩みに関わる要因としてあがっていたが、多重ロジスティック・モデルによる解析では、変わって母乳栄養があがっており、母乳育児に関する相談の充実も必要と考えられた。

#### 4) 「健診に来た他のお母様と交流がもてること」

単変量解析の結果から見ると「健診に来た他のお母様と交流がもてること」を期待する人はカテゴリ変数で、年齢が30歳未満、相談出来る人がいない、主な育児者が母親、第1子の母親、母乳育児をしている人に多く、連続変数では、自尊感

情が高く、接近感情得点が高い人に多いと考えられた。

しかし、多重ロジスティック・モデルによる解析では、相談者なし、主な育児者が母、第1子の母親、母乳育児をしている人が有意に多く、母親の感情得点について有意なものはなかった。

つまり、ここでも他との接触が少ない状況が要因と考えられた。

#### 5) 全体を通して

全体的にみると4領域の期待(成長発達の確認、他の子どもを見ること、悩みを相談できること、他の母親との交流)に対して、いずれも「第1子の母親」が要因としてあがっており、初めて母親となった人たちの健診への期待の大きさが示されたと言える。

また、他との接触を望む人には、母乳育児をしている、相談者なし、という要因が重要と考えられた。

そして、感情得点では、成長の確認や、日頃の悩みを相談することを期待する人の自尊感情が低いという結果であり、健診の計測や相談機能を通して母親としての自尊感情に関わることが重要と考えられた。

川井ら<sup>11)</sup>は、子どもの状態と関わりなく育児上の不安を示すことから、育児不安の本体と考えられるものとして、「育児困難感因子」をあげている。そして、これは母親としての自己信頼感のなさ、無能感、無力感といったことが考えられ、母性性の発達に問題があるのではないかとしている。今回の調査でも健診への期待に関わるものとして、「第1子の母親」「母親としての自尊感情の低さ」が重要な要因と考えられた。つまり、母親の乳児健診への期待に関わる要因の状況から、乳児健診においては、第1子の母親に対して、母親の自尊感情を高めるような働きかけが重要であると考えられた。

## 結 論

今回の調査では、3・4か月児健診に訪れた母親を対象に、健診に期待するものとして「専門家に成長発達を確認してもらおうこと」、「他の子どもの様子を見られること」、「日頃の悩みを相談

できること」, 「健診に来た他のお母様と交流がもてること」をあげ, それぞれの期待に関係する要因を検討した. その結果, ほとんどの母親が何らかの期待を持って健診に参加していた. そして, 健診に対する期待と関わる因子としていずれの期待にも第1子の母親であることが関与していた.

また, 集団健診の特徴的なものとしてあげた「他の子どもの様子を見られること」「健診に来た他のお母様と交流がもてること」については, 第1子の母親, 母乳育児をしている人という要因が関与していた.

なお, 「専門家に成長発達を確認してもらうこと」, 「日頃の悩みを相談できること」を期待する人の, 母親としての自尊感情が低く, 健診の計測や相談機能を通して母親としての自尊感情に関わる事が重要と考えられた.

(本論文は平成10年度富山医科薬科大学大学院医学系研究科修士課程修士論文として提出したものの一部である.)

## 文 献

- 1) 星 旦二: わが国における乳幼児健診の実態—実施形態とマンパワー体制について—, 小児内科, 26 (8), 1348-1352, 1994.
- 2) 前田秀雄: 高齢社会と地域保健, 保健婦雑誌, 50 (12), 932-936, 1994.
- 3) 成木弘子: 生活に基づいた支援を一保健指導から生活支援への転換, 保健婦雑誌, 51 (3), 192-195, 1995.
- 4) 三国久美: 1歳6か月健康診査受診児の親の乳幼児健診の満足度に関する研究, 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 4, 21-29, 1997.
- 5) 菅 佐和子: SE (Self-Esteem) について, 看護研究, 17 (2), 117-123, 1984.
- 6) 花沢成一: 母性心理学, 65-70, 医学書院, 東京, 1992.
- 7) 三国久美: 1歳6か月健康診査受診児の親の乳幼児健診の満足度に関する研究, 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 4, 21-29, 1997.
- 8) Rubin R (新道幸恵, 後藤桂子 訳): ルヴァ・ルービン母性論—母性の主体的体験, 143-144, 医学書院, 東京, 1997.
- 9) 炭谷靖子, 笹野京子, 細川淳子 他: 3ヵ月児健診時点の母子関係に関する研究 (第1報)—母親の疲労状況—, 第13回北陸母性衛生学会学術集会講演集 (金沢), 24, 1998.
- 10) Froman RD, Owen SV: Mothers' and Nurses' Perceptions of infant Care Skills, Research in Nursing & Health, 13, 247-253, 1990
- 11) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子 他: 育児環境が子どもの心身に及ぼす影響に関する研究—育児不安に関する基礎的検討—, 日本総合愛育研究所紀要, 30, 27-36, 1994.

The factor Concerned with Expectations  
to the Group Examination Clinic for Infants  
The Relation with Mothers' Attribute Factor,  
Self-Esteem as a Mother and the Emotional Aspects toward Infants

Yasuko SUMITANI<sup>1</sup>, Yuchi NARUSE<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Graduate School of Nursing, Toyama Medical and Pharmaceutical University

<sup>2</sup>School of Nursing, Toyama Medical and Pharmaceutical University

Abstract

The present study clarified the relationship between the expectation of mothers to group examinations for infants and the self-esteem as a mother, emotional aspects toward infants and other motherly attributes. The questionnaires were obtained from 683 mothers who have visited the group examination clinic for infants three or four months old.

Almost all mothers visited the clinic with some expectations. These expectations somehow but always related with the motherly status that the mother had a baby for the first time. The status and the factor of breast feeding related with two secondary purposes of the examination clinic ,i.e., to compare the growth of own infant with that of other infants and to communicate with other mothers. The mothers who wanted to confirm the normal growth and development and those who wanted to discuss daily worries were low in scores of self-esteem. Some approaches to enhance the self-esteem may be important for them in occasions of the group examination clinic.

Key words

Group examination clinic for infants, Self-esteem as a mother, Emotional aspects toward infants, Child care support